

056



前回までのあらすじ
なんだかんだったって、僕はクラスメイトの大野美月さん
と一緒に用具入れに閉じ込められてしまったのだった。



こんな事になってごめんね…
せつかく片付けを手伝ってくれたのに。

いや、大野さんのせじゃないし
気にしないでよ

憧れてた大野さんとこんなに
近づけるなんて、むしろラッキーだ
なんて言えないよね

うわあ…近くで見ると睫毛長いなあ…
瞳も緑がかってて人形みたいだ…

唇もつやつやしてて…

触ったら柔らかそう…

…どうかしたの？
大丈夫？

ううん！
何でもないよ大丈夫！

それから数時間が経過した

助けが来る様子が無いなあ…
見回りの先生とか来ると
思ってたのに…

大野さんの顔色も
なんだか悪くなつて
来てるみたいだし…

大丈夫だよ、明日になれば
みんな登校してくるし！
僕もいるから危ないこと
なんてないよ！

僕は大野さんを励まそうと
話しかけ続けた

それでも大野さんの顔色は
悪くなつていくように思えた

心配かけてごめんなさい…

大丈夫だから…
少し静に…

どうしたの！
やっぱどこか悪いんじゃない？

あ…や、だめ

今動かされると…っ！



ぼ…僕は気にしてないからさ…
それに、誰にも言わないから
大丈夫だよ

うう…

ごめんなさい、
ごめんなさい…

何とか気分転換させて
あげないと…

ほら、濡れちゃったの脱いで
乾かせば誰にもばれないよ

うん…

見ちゃだめだよ…

見ないよ！ほら！

うわ…目の前で美月ちゃんが
服を脱いでるなんて…

しゃ…
しゃ…



ポロッ...



僕の大きいでしょ...?
男子の中でも一番なんだ

ちゅ...
ちゅ...

グイグイ



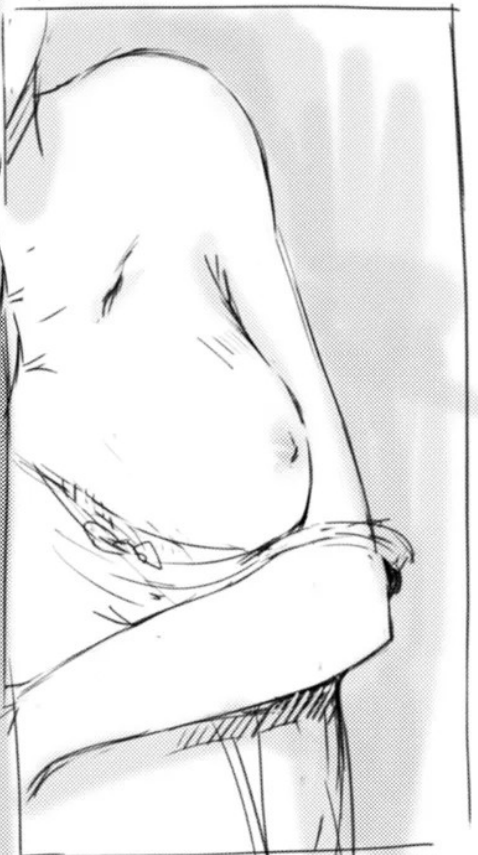
ごめん大野さん...
大野さんが可愛いから僕も...
変な気分になっちゃった...

え...?

え...?

ニん
おちんちん...?

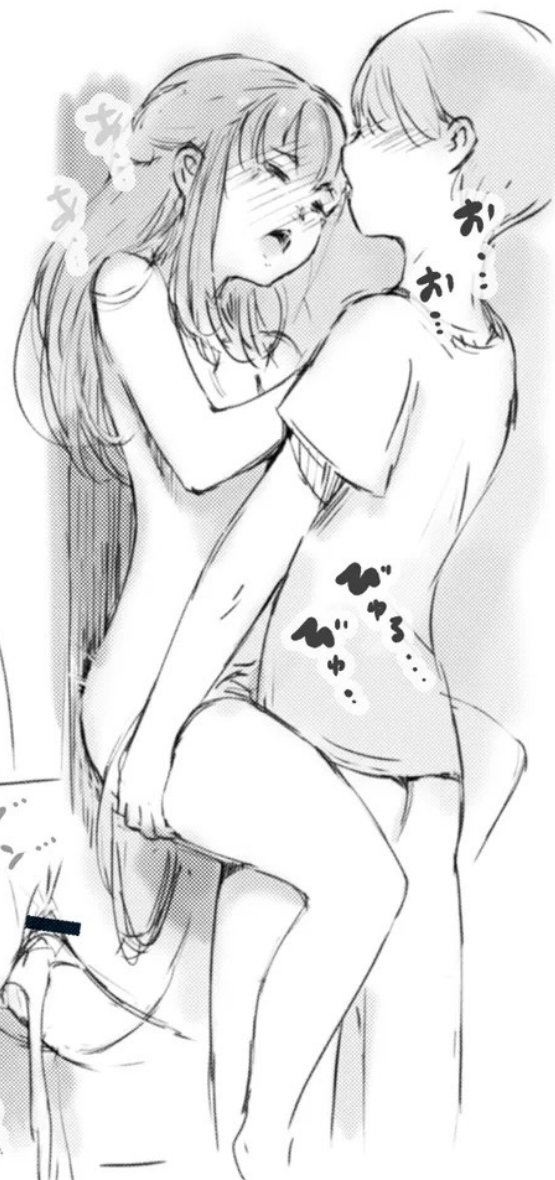


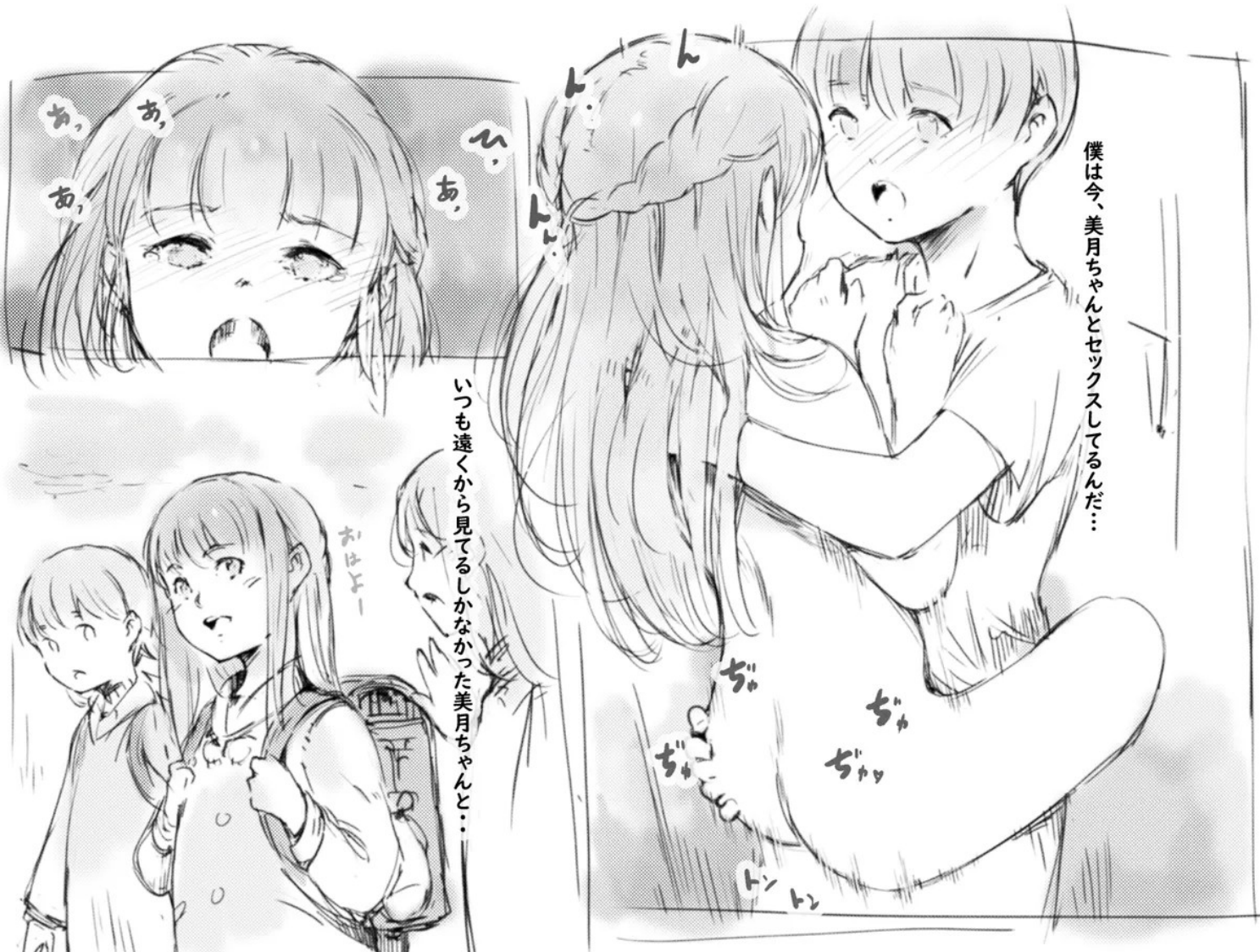








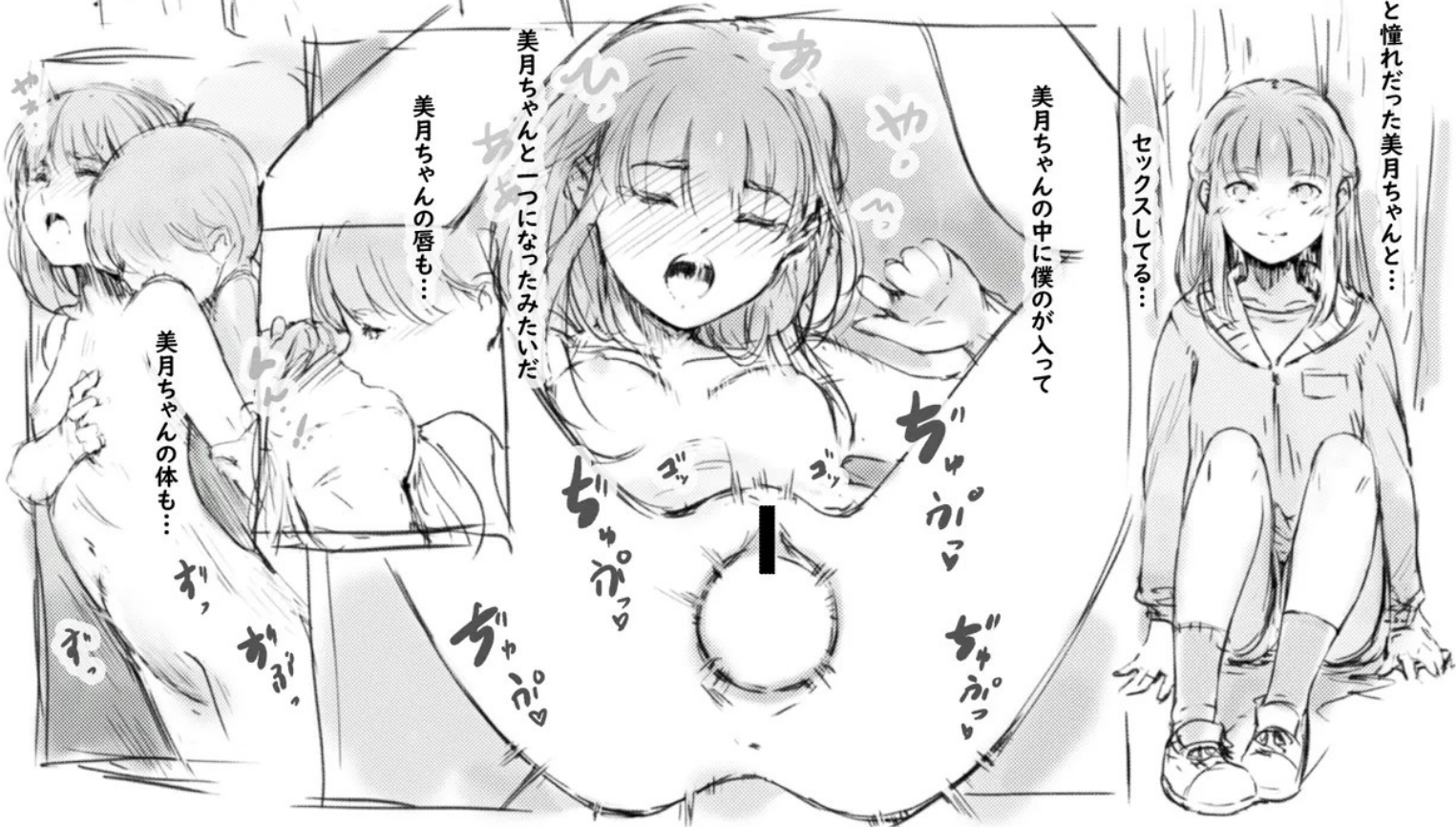




僕は今、美月ちゃんとセックスしてるんだ…

いつも遠くから見てるしかなかった美月ちゃんと…

おはよう



ずっと憧れだった美月ちゃんと…

セックスしてる…

美月ちゃんの中に僕のが入って

美月ちゃんの一つになったみたいだ

美月ちゃんの唇も…

美月ちゃんの体も…

美月ちゃん…

美月ちゃんは全部…

け、
は、

全部僕のものだっ…!!

パン

パン

パン

パン

ちゅパン

ちゅ

パン

うう…
射精るよ…っ!

あ

や

だめ…!!

射精るっ!

ちゅ♡

ちゅ♡

ちゅ♡

射精るっ!

ちゅ♡
ちゅ♡
ちゅ♡

あ

あ

あ

あ

あ

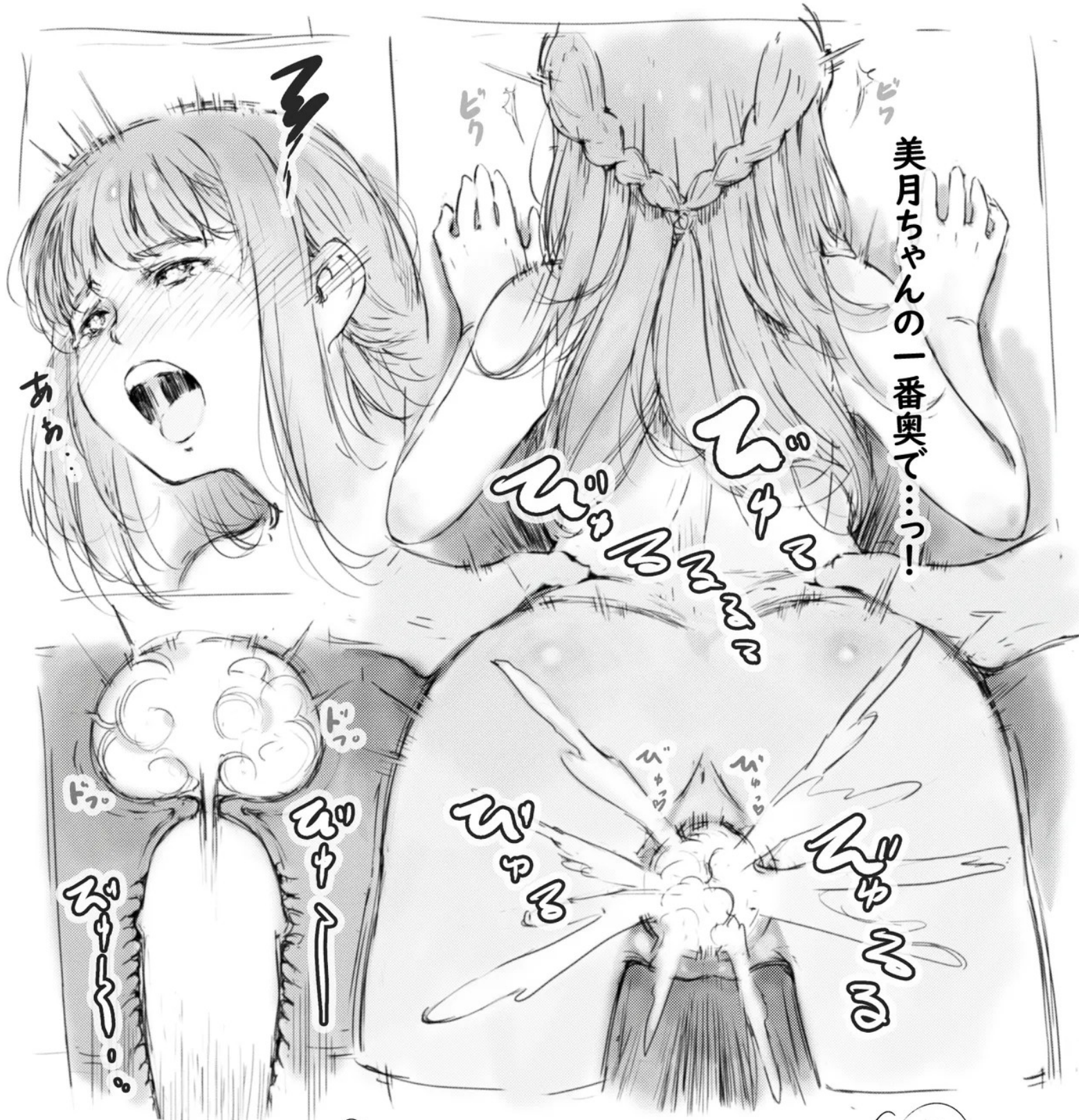
ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

美月ちゃん…
またいくよ…

中で受け止めてね…!!



美月ちゃん…
美月ちゃんの中が気持ちよくて
全然止まらないよ…

もっと美月ちゃんの中を
僕の精子でいっぱいになりたい…

美月ちゃん…





うん…
ネットで見たことあったから
美月ちゃんにやってもらったけど



やっぱり美月ちゃんの
あそこの方が気持ちいいなあ…



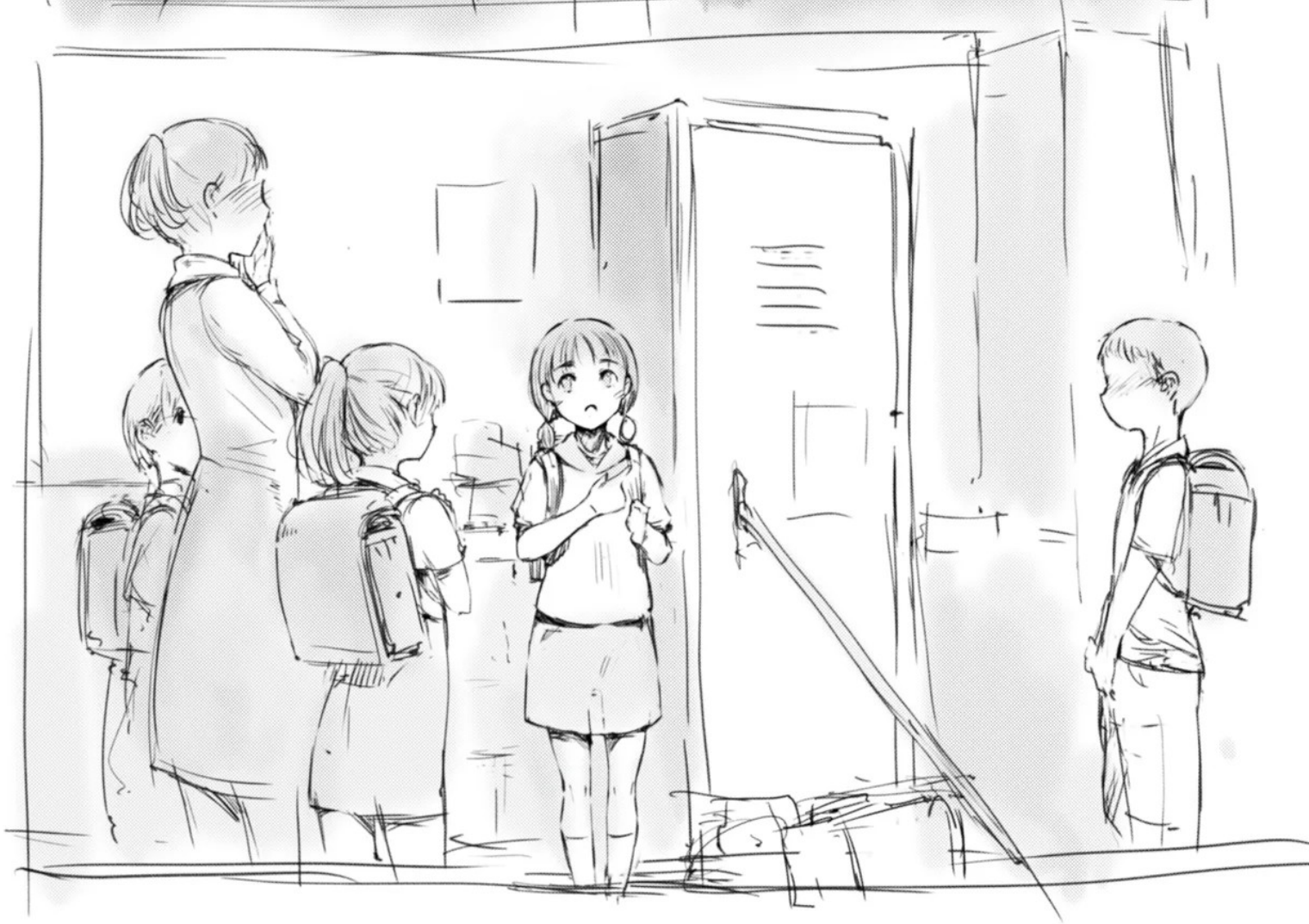
またこっち使わせてね美月ちゃん♡

それから僕は何度も美月ちゃんとセックスをした

彼女の奥に僕のを押し付けて何度も何度も射精した

美月ちゃんの中に出す度に彼女が僕のものになっていく気がして、彼女の股から精子が溢れ、僕のちんこから何も出なくなっても行為をやめることが出来なかった





その後、僕は先生と両親に滅茶苦茶怒られたが
男子の間ではちょっとしたヒーロー扱いだった。

美月ちゃんはそれから不登校になってしまい
暫くしてからほかの学校に転校したと聞かされた。

後で知った話では僕は彼女の恋人には
なれなかったけど父親にはなったらしい